

一般社団法人 小平青年会議所

学校対抗わんぱくなわとび甲子園 競技規則

1. 開催目的

次代を担う青少年に友情や連帯感を築く機会を与え、健全な心身が育まれるきっかけとする。

2. 参加資格

- ・小平市内の小学校及び在学小学生とする。市外の小学校及び市外の小学校に在学の小学生はこの大会に参加できない。
- ・当該小学校の引率教員ならびに保護者は団体戦でのなわ回しとしてのみ競技に参加できる。
- ・在学の小学校とは違う小学校から参加することはできない。

3. 競技種目

個人戦について

① カテゴリー

低学年(1, 2年生)・中学年(3, 4年生)・高学年(5, 6年生)の3つのカテゴリーに分け、それぞれで競技を行う。

② 参加人数

1学年4名選抜の合計24名が望ましい。

参加希望者が多数の場合、競技ごとのチームを選抜してもよい。

(但し、競技に出られる人数は24名を超えることはできない。)

予選においては出場校をAの部・Bの部に分けて行う。

個人戦出場制限・・・低・中・高学年あわせて24名

団体戦出場制限・・・各種目ともに24名

- 選手の競技ごとの交代は認める。同じ競技内での交代はなしとする。
- 控え選手も可能とするが、事前登録・当日登録以外の選手の出場はなしとする。

③ 競技内容

④ 低学年の部

第一競技 前回し跳び

練習時間・・・30秒間

競技時間・・・1分間(残った選手は第二競技へ)

※怪我や体調不良等により次競技に進めない場合は失格とする。

跳び方・・・一回旋一回飛びとして、両足をそろえて跳ぶ。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

第二競技 後ろ回し跳び

練習時間・・・15秒間

競技時間・・・3分間(決勝戦進出者をAの部Bの部それぞれから5名決める)

※3分間の中で5名になった時点で競技を終了とする。

※尚、3分間終了後6名以上の進出者がいる場合、

後ろ回し跳びの競技をもって3分間もしくは跳んでいる選手が5名となるまで延長戦を行う。

3分間の延長戦を終えて6名以上選手が残った場合には残った全員が決勝進出とする。

※怪我や体調不良等により次競技に進めない場合は失格とする。

跳び方・・・一回旋一回飛びとして、両足をそろえて跳ぶ。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

第三競技(決勝戦) 前回し跳び

練習時間・・・15秒間

決勝時間・・・3分間で跳んだ回数を競い、回数の多い順に順位を決定する。

表彰は1～10位までとする。

※3分間以内で引っかけってしまった場合、その時点で競技終了とし、それまで跳んだ回数を記録とする。

※審判は選手一人一人に付き、回数のカウント及び跳び方の適正を見る。

跳び方・・・一回旋一回飛びとして、両足をそろえて跳ぶ。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

※決勝戦進出者が各々の学校に対して加点される点数

1位100点、2位90点、3位80点、4位70点、5位60点、

6位50点、7位40点、8位30点、9位20点、10位10点とする。

中学年の部

第一競技 前回し跳び

練習時間・・・30 秒間

競技時間・・・1 分間(残ったものは第二競技へ)

※怪我や体調不良等により次競技に進めない場合は失格とする。

跳び方・・・一回旋一回飛びとして、両足をそろえて跳ぶ。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

第二競技 後ろ回し跳び (延長戦となった場合は綾跳び)

練習時間・・・15秒間

競技時間・・・3 分間(決勝戦進出者をAの部Bの部それぞれから5名決める)

※3 分間の中で5名になった時点で競技を終了とする。

※尚、3分間終了後6名以上の進出者がいる場合、

綾跳びの競技をもって3分間もしくは跳んでいる選手が5名となるまで延長戦を行う。

3分間の延長戦を終えて6名以上選手が残った場合には残った全員が決勝進出とする。

跳び方・・・一前回し跳びを行い、なわを前で交差させ前回し跳びを行い、
両足をそろえて跳ぶ。

※競技開始の合図から試技までのインターバルは 3 秒以内とする。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

第三競技(決勝戦) 綾跳び

練習時間・・・15秒間

決勝時間・・・3 分間で跳んだ回数を競い、回数が多い順に順位を決定する。

表彰は 1～10位までとする。

※3分間以内で引っかけってしまった場合、その時点で競技終了とし、それまで跳んだ回数を記録とする。

※審判は選手一人一人に付き、回数のカウント及び跳び方の適正を見る。

跳び方・・・二回旋一回飛びとして、両足をそろえて跳ぶ。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

※決勝戦進出者が各々の学校に対して加点される点数

1位100点、2位90点、3位80点、4位70点、5位60点、
6位50点、7位40点、8位30点、9位20点、10位10点とする。

高学年の部

第一競技 前回し跳び

練習時間・・・30秒間

競技時間・・・1 分間(残ったものは第二競技へ)

※怪我や体調不良等により次競技に進めない場合は失格とする

跳び方・・・一前回し跳びを行い、なわを前で交差させ前回し跳びを行い、
両足をそろえて跳ぶ。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

第二競技 交差跳び (延長戦となった場合は二重跳び)

練習時間・・・15秒間

競技時間・・・3 分間(決勝戦進出者をAの部Bの部それぞれから5名決める)

※3 分間の内5名になった時点で競技を終了とする。

※尚、3分間終了後6名以上の進出者がいる場合、

二重跳びの競技をもって3分間、もしくは跳んでいる選手が5名となるまで延長戦を行う。

3分間の延長戦を終えて6名以上選手が残った場合には残った全員が決勝進出とする。

※怪我や体調不良等により次競技に進めない場合は失格とする。

跳び方・・・なわを前で交差させ、前回し跳びを行い、両足をそろえて跳ぶ。

※競技開始の合図から試技までのインターバルは3秒以内とする。

※他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

第三競技(決勝戦) 二重とび

練習時間・・・15秒間

決勝時間・・・3 分間で跳んだ回数を競い、回数が多い順に順位を決定する。

表彰は1～3位までとする。

※3分間以内で引っかかってしまった場合、その時点で競技終了とし、それまで跳んだ回数を記録とする。

※審判は選手一人一人に付き、回数のカウント及び跳び方の適正を見る。

跳び方・・・二回旋一回飛びとして、両足をそろえて跳ぶ。

※ 他者との偶然の衝突、器具の故障による競技終了に対しての救済措置はとらない。

※決勝戦進出者が各々の学校に対して加点される点数

1位100点、2位90点、3位80点、4位70点、5位60点、

6位50点、7位40点、8位30点、9位20点、10位10点とする。

団体戦について

① カテゴリー

学校単位とし、各校から複数のチームの参加はできない。

② 参加人数

1校からのエントリー人数の上限は設けませんが、各競技においては1チーム 24 名以下
(1 学年 4 名選抜が望ましい)とする。

※事前登録・当日登録した選手であれば他の競技と重複して出場しても良いものとする。

③ 競技の順番

第一種目・第二種目共に、各競技開始前に各校の代表者のくじ引きにより競技の順番を決める。

④ 競技内容

第一種目 8の字跳び

競技時間・・・3 分間

※ 競技の前に1分間の練習・作戦会議時間を設ける。

※ 競技場所・競技順番は競技前に代表者によるくじ引きで決める。

跳び方・・・回旋しているなわに1方向から競技者が一人ずつ順に入って抜け、競技者全員が抜けたら反対方向より順に入って跳び抜ける。

なわに引っ掛かった場合、およびなわが静止した場合は、始めから競技を再開することができる。

メンバーチェンジ・・・他の競技からのメンバーチェンジは認めるが、規定人数を守ること

※同じ競技内でのメンバーチェンジは禁止とする。

例：24名以上で競技に参加し交代する形も禁止とする。

得点方法・・・指定時間内になわに入って跳び抜けた競技者について、1人1回1点とし、制限時間内での得点を合計する。

※ 引っかかった競技者は得点対象とならない。

認定基準・・・各学校に審判(関係者以外を選出)を2名以上配置、回数及び規定人数・適正なメンバーチェンジのジャッジを行う。

注意事項

※ 複数方向からの進入は不可とする。

※ なわの回転方向に関しては自由であるが、1選手が必ず1跳躍をすること(通り抜けはノーカウント)。

※ 使用するなわは大会指定のものとする。

※ 回し手はなわの両端を持ちなわを回す。

(なわの長さとして持ち手を除く長さを5メートル以下に短くして競技することを禁止する)

※ 回し手は子ども・大人は問わない。

※ 参加人数に関しては、規定人数以内であれば各学校の作戦下に任せる。

第二種目 1人ずつ跳び

競技時間・・・3分間

※ 競技の前に2分間の練習・作戦会議時間を設ける。

※ 競技場所・競技順番は競技前に代表者によるくじ引きで決める。

跳び方・・・回旋しているなわに1人ずつ順に入って跳び、全員が入ったら全員で跳び続ける。

競技中は連続して跳ぶものとし、なわに引っ掛かった場合、およびなわが静止した場合は、始めから競技を再開することができる。

メンバーチェンジ・・・他の競技からのメンバーチェンジは認めるが、規定人数を守ること及び同じ競技内でのメンバーチェンジは禁止とする。

例：24名以上で競技に参加し交代する形も禁止とする。

得点方法・・・制限時間内になわに入れた競技者の人数について、1人1点として加算する。なわの中に入って跳んでいても、全員が入れるまで、その回数にかかわらず1人1点とする。

- (24人で競技に参加した場合、24人目の初回までを1人1点とし、累計24点となる。)
参加競技者が旋回中のなわに全員入れた場合、次からの1回旋について、入って跳んでいる人数分の得点が全員で跳ぶ都度加算される。
(24人で競技に参加した場合、24人目の2回目以降、全員で跳ぶ都度24点となる。)
※ 引っかけた競技者は得点対象とならない。

認定基準・・・各学校に審判(関係者以外を選出)を2名以上配置、回数及び規定人数・適正なメンバーチェンジのジャッジを行う。

注意事項

- ※ 複数方向からの進入は不可とする。
- ※ なわの回転方向に関しては自由である。
- ※ 使用するなわは大会指定のものとする。
- ※ 回し手はなわの両端を持ちなわを回す。
(なわの長さとして持ち手を除く長さを5メートル以下に短くして競技することを禁止する)
- ※ 回し手は子ども・大人は問わない。
- ※ 参加人数に関しては、規定人数以内であれば各学校の作戦下に任せる。
- ※ 審判員の判定に対して疑問のある場合は当該選手が、団体戦の場合は当該選手と担当者に限り質問することが認められる。ただし、抗議や異議であってはならない。
- ※ 異議がある場合は競技者が所属する団体の代表者を通じ本会に申し出ることができる。ただし、抗議であってはならない。
- ※ 当日、体調の悪い方の競技参加はお控えください。大会には十分な睡眠と食事を取り、万全の体調で参加してください。

改訂履歴

2010年03月施行
2010年11月改定
2011年08月改定
2012年07月改定
2013年09月改定
2015年09月改定

注意事項に3項目を追加いたしました。

第7回(2014年度)からの競技規則 変更事項

変更①

個人戦の予選を学年毎に分けて行うように変更いたしました。

従来は、低学年・中学年・高学年の3つのカテゴリでそれぞれ一斉に予選を行っていましたが、近年の参加人数増加に伴い、一斉に予選を行うには会場の広さからすると危険であるとして、それぞれのカテゴリをさらに学年ごとに分けて予選を行うように変更いたしました。

予選時は、

低学年Aの部(1年生)、低学年Bの部(2年生)

中学年Aの部(3年生)、中学年Bの部(4年生)・

高学年Aの部(5年生)、高学年Bの部(6年生)

と分けて行い、それぞれから5人の決勝進出者を出します。

決勝戦の際には、低学年(1年生5人+2年生5人)・中学年(3年生5人+4年生5人)・高学年(5年生5人+6年生5人)と3つのカテゴリで分けて競った結果で順位を決定いたします。

学校ごとの学年の配分には充分気を配っていただきますようお願いいたします。

変更②

個人戦での決勝進出者を決定するための延長戦のルールが変更となりました。

延長戦は1度(3分間もしくは規定の人数に達するまで)だけとなりました。

3分間を終えて規定の人数に達しない場合には、再延長戦は行わず、その時点で跳び続いていた選手全員が決勝進出となりました。

決勝進出者が多くなり審判が競技に支障が出ると判断した場合には、決勝戦を2回に分けて行う場合があります。

また延長戦の種目は、

・低学年⇒後ろ回し跳び ・中学年⇒綾跳び ・高学年⇒二重跳び

と中学年と高学年の延長戦は第2競技と変わりますのでご注意ください。

変更③

競技規則そのものではありませんが、個人戦での練習時間の変更をいたしました。

個人戦は勝ち抜いていくと最大で、第1競技、第2競技、決勝戦まであります。

従来はそれぞれの競技の前に30秒の練習時間をとっていましたが、

本年度は、第1競技の前は30秒、第2競技と決勝戦の前は15秒と練習時間を短縮いたしました。

お間違えのないようお願いいたします。

以上。